

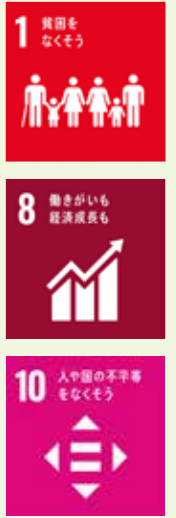
継続できる 事業モデルを描く

香川県で栽培されるニンニクは白くて大きく、香りのよいのが特徴だ。香川県と徳島県の農家を組合員とするファーマーズ協同組合はニンニク栽培に力を入れてきたが、近年は担い手不足による生産量の減少傾向や、質のいい種子の確保が課題となっていた。

そこで JICA 中小企業現地調査プログラムに参加。訪れたベトナム・ゲアン省のキソン高原でニンニク栽培の可能性を感じ、あらためて JICA 民間連携事業を活用して調査を行い、試験栽培を実施した。「気候や土壌が合っていたのでしよう。香川と同じ品質のニンニクが育ちました」と同組合の近藤隆さんは、栽培地としての可能性を語る。

同地で良質なニンニクを栽培して日本への輸出とベトナム国内での流通を増やすと同時に、質のよいニンニクの種子を安定的に日本に輸入する——ファーマーズ協同組合はそんな未来を描いている。しかしゲアン省で栽培するためには、適切な肥料の施し方や農薬の使い方などニンニク栽培の技術が必要だった。そこでまず行ったのが、ゲアン省からの技能実習生の受け入れだ。「1994年から東南アジアの技能実習生を受け入れ

貢献する SDGs



農業



収穫したニンニクを選別する技能実習生。

ゲアン省は農業に携わる人が多く、貧困率も高い地域です。付加価値の高いニンニクの栽培を通じて、貧困解消に貢献することを期待しています。

JICA 担当者
真田みぎわ (さなだ・みぎわ) さん

ニンニクで深まる 農業交流

ニンニクの生産量が全国第3位の香川県で、ファーマーズ協同組合の組合員はニンニク栽培を長年にわたり牽引してきた。新たな栽培地を求めて、ベトナムでの事業に乗り出している。

案件名 ゲアン省におけるニンニクを中心とした農産物のバリューチェーン構築に係る案件化調査 2017年9月～2018年8月



てきたので、農家との連携もうまくなりました。すでに5人が来日し、組合員の農家でニンニク栽培を学んでいます」と近藤さんは説明する。

現地での生産を軌道に乗せると同時に、ニンニクスライスの冷凍品やペースト、ガリックオイルなどの加工品作りも視野に入れていくそうだ。「継続的な事業にするために、流通・販売まで考えた事業モデルを考えています」と近藤さん。ゲアン省はラオス国境沿



ファーマーズ協同組合
近藤 隆 (こんどう・たかし) さん

ファーマーズ協同組合は、東南アジア諸国を中心に農業分野での協力を長年行ってきた。「帰国した技能実習生の働き場をカンボジアで提供し、農産物の生産・販売を行っています。その経験をベトナムでも生かしたい」。



質のよい
ニンニクが
収穫できた!

試験的に栽培したニンニクを収穫。近藤さん(左端)も現地を訪れ、品質を確かめた。

*現「中小企業SDGシナジー支援事業」の案件化調査「中小企業支援型」。詳細は22ページへ。